

# アフリカからの国際大留学生

## フチオカでインターンシップ

研削研磨のバイオニア(株)フチオカ(福岡)代表取締役社長・今町8)は、9月19日から10月3日まで、JICA(国際協力機構)のABEイニシアティブ(アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ)を活用して国際大学(南魚沼市)で学んでいる、ソマリア出身のモハメッド・リベンさんとポツアナ出身のアラバン・アディファラナさんのインターンシップ(就業体験)を実施した。

(M)

### 大正7年創業から105年目

#### 次代の新たな展開を見据えて

アフリカから国際大学への留学生2年目に入った2人は、日本への留学、フチオカでのインターンシップ、将来に向けた抱負などについて次のように話した。

ビジネスの目標として日本とソマリアで何かをしたいということがあり、日本のテクノロジや文化を学びたいと考えて日本への留学を目指した。

フチオカの皆さんが忙しいのに私を助けてくれたり、親切に対応してくれました。会社全体の雰囲気、社員同士、社員と上司の関係がとてもフレンドリ―であることにとても感銘を受けた。

国際大学卒業後は、もう一度、日本企業でインターンシップを行い、日本の企業で日本とソマリアの貿易に取り組み、日

本とソマリアの橋渡し役となりたい(モハメッド)。発展している日本できまざまなことを経験し、日本のビジネス文化を知り、日本で学んだことを持ち帰りたいと考えて日本への留学を決めた。

燕三条ではステンレスのクラス磨きを体験したが、せっかくなので職人の皆さんのハイクオリティなモノづくりは素晴らしいと感じた。

国際大学卒業後はポツアナ(ダイヤモンドの産地)に戻り、フチオカとコラボレーションしてダイヤモンドを切ったり削ったりする作業にフチオカの「切る」「削る」「磨く」「研ぐ」の高度な技術力と創造力を活かしたビジネスができるのではないかと考えている(アラバン)。

南魚沼市での生活で冬の雪と寒さを初体験した2人はスキーなども楽しみ、生活面などでの驚きについて、モハメッドさんは「家族でもコンパニイが聞いている、明るい安全。ソマリアでは家族

ながらしなければならぬが、日本の一番は安全」と話してくれた。

フチオカにとって大学生を迎えるのインターンシップ実施は国内外の大学を通して初めてのこと。

アフリカからの留学生を指定して受け入れを進めた福岡優介専務は、今回の取り組みについて次のように話している。

従業員が留学生との間に溝を作ることなく接し、アフリカに向けた興味・関心を高める良い国際交流ができたと思う。

大正7年の創業から1

05年目を迎えている今日。次の100年を見据えて、「地球上の最後のフロンティア」であるアフリカとの関係を考え、おく必要があると以前から考えていた。

海外との取り引きは日系企業とあるものの、アフリカは未知の世界。次代の新しい展開を進めていくためには、まず、人を知り交流することが必要と考えてアフリカ人留学生を指定した。チャンスがあれば、アフリカの人たちと一緒にビジネスを進めたいと考えている



左から福岡優介専務、アラバン・アディファラナさん、モハメッド・リベンさん